

平成 28 年度（2016 年度）
事業報告書

自 平成 28 年 4 月 1 日
至 平成 29 年 3 月 31 日

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

目 次

概 況	1
1. はじめに	1
2. 連盟全体	1
3. 事業別概況	2
I. 競技会事業（公益目的事業 1）	8
1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）	8
2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2）	9
3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）	9
4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）	9
II. 普及事業（公益目的事業 2）	10
1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）	11
2. 講習会等の開催（公益目的事業 2.2）	12
3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）	13
4. 広報（公益目的事業 2.4）	16
5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）	17
III. 国際交流事業（公益目的事業 3）	18
1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）	18
2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）	18
3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）	19
4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）	19
IV. 収益事業等	20
1. 公認（収益事業等 1）	20
2. 商品販売（収益事業等 2）	20
V. 法人・管理部門	21
1. 会員・会友	21
2. 理事会・会員総会	22
3. 組織運営	23
4. 常設委員会・特別委員会	23

概 況

1. はじめに

平成 28 年度の事業計画では、当連盟の中長期的な課題として次の 3 点を挙げた。

課題 1：健全な財務体質を堅持すること

課題 2：普及活動をブリッジセンターに定着させること

課題 3：プレイヤーの高齢化に対応すること

課題 1 に関しては、例年 1,000 万円以上の赤字が見込まれるブリッジフェスティバルについて、非開催であった平成 27 年度の利益と合わせて収支均衡となるように計画した。具体的には平成 27 年度の利益 1,500 万円に基づいて 1,700 万円の赤字予算を編成したが、決算は赤字が 1,085 万円にとどまり、収支均衡が達成された。現状ではほかに大幅な赤字が見込まれる事業はなく、健全な財務体質が堅持できている。

課題 2 に関しては、助成を厚くすることで体験教室および入門講習会の開催数増加を図り、以前は個別に行っていた告知広告を連盟が集約して行うことで効率化を図った結果、すべてのブリッジセンターで体験教室および入門講習会が定期的に行われるようになってきた。普及活動がブリッジセンターに定着するにつれて、受講者数も増加している。

課題 3 に関しては、競技参加者数の推移を注意深く見守った。平成 28 年度は概ね堅調であったが、連盟主催のナショナル競技会やリジョナル競技会では一部に減少傾向が見えてきた。一方、公認競技会のセクショナルの参加者数は過去最高であった。会員・会友の高齢化による参加者減はやむを得ない状況であるが、初心者大会を支援することなどによって新たなプレイヤーも多く参加するようになってきている。

以下では、平成 28 年度事業計画の基本方針に沿って事業活動の概況について述べる。

2. 連盟全体

平成 28 年度は、連盟全体として次の 3 点を事業活動の基本方針として掲げた。

「本年度の予算編成に関しては、基本的に昨年度と併せた 2 年度での収支均衡予算を目指す。具体的には、昨年度とほぼ同額の 2 億 3 千万の事業予算を組み、昨年度の黒字幅の範囲で NEC 杯の開催など赤字が見込まれる事業を実施する。」

当期経常増減額のうち経常収益については 2 億 3,763 万円を見込んでいたが、実績では 2 億 2,397 万円となり、予算に対して 1,366 万円の不足となった。実際には商品販売事業の内部取引消去額が約 536 万円になり、それを含めても約 830 万円の収益減となった。経常費用については当初予算では 2 億 5,507 万円を見込んでいたが、実績では 2 億 3,337 万円（内部取引消去前は 2 億 3,874 万円）なり、約 2,170 万円（内部取引消去前は約 1,633 万円）の改善が見られた。経常収益では主催競技会収益が対予算比 526 万円の減収であったが、公認競技会収益が対予算比 92 万円の増収となった。

競技会参加者数については減少することが懸念されていたが、主催競技会では減少したものの、公認競技会には予測を上回る競技会参加者があり、公認事業収益は前年度実績と比較してもわずかだが増収となった。経常費用が予算を下回った主な要因は、普及事業費が対予算比 797 万円の減少、国際交流事業が 616 万円の減少、商品販売事

業が 263 万円の減少、法人会計が 140 万円の増加であった。最終的に 10,852,524 円の赤字決算となり、ブリッジフェスティバル非開催年度の平成 27 年度と合わせて収支均衡を達成し、2 年度通算で 400 万円強の黒字となった。

「引き続き業務執行体制の強化、事業の効率化とともに、公益に資する事業運営に努め、各事業部の事業計画に沿って計画的に事業を実施する。競技会事業においては、会員・会友の高齢化に伴う参加者数の減少を防ぐ競技会を検討し、実施を目指す。またディレクターを含めた運営スタッフのレベルの維持向上、ノウハウの継承を行う。普及事業部においては、中期計画に基づいて進めた事業の成果に応じ、それぞれの事業の継続、修正または中止を決定した後、本年度新規事業の実施計画とともに、本年度からの 3 か年の中期計画を改めて策定し、それに基づいて事業を進める。」

平成 27 年度に続き、参加者数の減少を防ぐ競技会を検討したが、すぐに導入できるような方策はなく、人気のある競技会の開催を増やす程度にとどまった。

ディレクターを含めた運営スタッフのレベルの維持向上については、ディレクターワーキンググループで継続して検討を行った。

普及事業部では、平成 27 年度に立案した 3 か年の中期計画で平成 27 年度末の会員・会友数の目標を 8,000 人としたが、実績は 7,719 人であった。平成 28 年度は、入会や紹介のキャンペーンを継続し、体験イベントの出展回数を増やしたところ、平成 28 年度末の会員・会友数は若干増加して 7,752 人となった。将来の会員増につながる新たな施策としては、入門講習会に知人の紹介を奨励するキャンペーンの導入を計画し、平成 29 年度からの実施に向けて準備を開始した。

「一昨年度から昨年度にかけて、競技会および普及活動の拠点であるブリッジセンターの閉鎖と新設が相次ぎ、ブリッジセンターも世代交代期を迎えているが、本年度も、ブリッジセンターと協力関係のいっそうの強化を目指す。昨年度行った「公認クラブとブリッジセンターに関する規則」の改訂や当連盟とブリッジセンター間の会計取引の基準化など、ブリッジセンターとの関係の見直しは継続する。また、体験教室、入門講習会への助成だけでなく、新たな形態のブリッジサロン参加者や初級プレイヤーにも対象を拡げ、さまざまな魅力があふれるプレイ環境を構築していく。」

平成 28 年度は「センター協議委員会」において、競技環境の向上を目的として前年度よりブリッジセンター側と協議を行っていた「対応の難しいプレイヤーに対するガイドライン」を 6 月に制定した。また、競技上の不正防止やマナーの改善などを目的とした「記録保管制度」に関する相談をブリッジセンター側と行い、10 月に導入した。

プレイヤーズサロンに対する助成を継続し、幅広いプレイヤーが夜間に手軽に楽しめる環境の提供を行った。

3. 事業別概況

(1) 競技会事業（公益目的事業 1）

「2015 年以降 NEC ブリッジフェスティバルを隔年開催とし、今年度は 2017 年 2 月に

開催する。」

平成 28 年度は 2015 年以降隔年開催としたブリッジフェスティバルを開催し、NEC 杯には過去最高の 53 チーム、うち海外から招待チームを含め 29 チームの参加があった。(前回 2015 年 2 月は全 46 チーム、海外から 16 チーム)

「主催競技会の運営においては、世界各国からも高い評価を受けている大会運営ノウハウを生かして質の高い競技会の提供に努めるとともに、担当ディレクターや参加者からの意見やニーズを収集して問題点や課題の把握に努め、迅速に対応していく。」

ブリッジフェスティバル大会の主任ディレクターとして招聘した ACBL 法規委員会のメンバーでもあるマット・スミス氏から、ACBL の規則の解釈などについて直接意見を伺い、連盟での対応の参考にした。

2017 年 7 月の YehBros 杯運営を引き受けホテル椿山荘東京で開催する準備を開始した。

「中長期的な課題として、引き続きよりよい競技機会を広く提供するために競技会の内容の見直しと競技会参加者に対するサービス向上を図る。」

連盟では JTOS とブリッジメイトを使用することで、迅速で正確な競技会結果の集計を行っている。平成 27 年度に、ブリッジメイトが使用している周波数帯を携帯電話が使用できるようになることが判明し、平成 28 年度はそのための対応を行った。その結果、2017 年 1 月に新しい周波数帯への移行の認証を受けることができ、ブリッジメイト端末とサーバーはファームウェアのアップデートだけで、問題なく移行が完了した。

ボード等の競技会用具の充実を図り、ほとんどの主催競技会において事前に組み込んだボードをプレイすることができるようにした。

「競技会運営管理システムの整備・改善に努める。競技会運営ソフト (JTOS) についてはこれまで JTOS 保守グループを組織して保守および新機能の導入を行ってきたが、今後は競技会事業部が継続して保守にあたることとし、使用者のニーズに合わせた新バージョンを随時リリースする。スコア入力システム (ブリッジメイト) の貸与及び導入支援を継続する。」

JTOS 新バージョン (Ver 3.4) を 2017 年 2 月にリリースした。

ブリッジメイトのファームウェアは、アップデートが発表され次第、導入しているクラブに通知してアップデートを依頼した。

地方リジョナルへのブリッジメイトの無料貸出を実施し、その他の希望クラブには有償で貸し出した。

「ディレクター講習会を継続し、競技会運営のレベルアップを図る。隔年に実施しているナショナルディレクター養成プログラムは、本年度は実施しない。」

クラブディレクター講習会を 2017 年 3 月に開催した。

隔年開催のナショナルディレクター養成プログラムは非開催年度につき開催せず、ディレクターの現地研修のみを行った。

ディレクターワーキンググループにより、ナショナルディレクター試験の開催方法を見直し、2017 年 9 月に予定している 2 次試験では現地試験も行う方向で具体的な検討を開始した。

(2) 普及事業（公益目的事業 2）

平成 28 年度は平成 26 年度「普及事業中期計画」で定めた以下の方針に沿って、計画的に事業活動を実施した。

「平成 25 年度以降主なターゲットとしてきた 20～30 代及び新たなシニア世代に加えて、40 代～50 代の新規女性プレイヤーを重視し、新たなイベント企画などで働く女性にとっても魅力のある PR 活動を展開していく。」

11 月と 2 月の計 2 回、サンケイリビング社の一般向けイベントに体験コーナーを出展し、40 代～50 代の新規女性プレイヤーの獲得を意識した PR 活動を行った。来場者には各センターの体験教室を紹介し、積極的に誘導を行った。

「平成 26 年度以降助成対象を上げてきた初心者競技会は、無償招待キャンペーンを継続して地方からの参加を促進させるとともに、優勝賞品や参加賞を充実させて、さらなる参加者の増加を図る。」

平成 28 年度も 6 回の初心者大会を支援し、地方活性化と初心者の競技会への誘導を兼ねた招待キャンペーンを行った。首都圏の参加者向けに賞品の充実を図った結果、参加者が通常の初心者競技会と比べて約 3 倍になるなど盛況となった。

「ゲームマーケットへの出展拡大や機内誌へのブリッジクイズ掲載などで興味喚起を継続してきた「パズル、ゲーム、勝負事志向のグループ」に対しては、平成 27 年度に構築した「JCBL ルーム」で実際にカードプレイを体感してもらうだけでなく、入門から簡単な内容までのコンテンツを整備したチュートリアルを制作し、そのサイトに誘導するような仕組みを検討する。」

機内誌のプロモーション広告を継続するとともにゲームマーケットでの体験イベントは規模を拡大して開催し、既存サイト(BBO)に構築した JCBL 専用ルームへの誘導を行った。平成 29 年度の実施を目指して「パズル、ゲーム、勝負事志向のグループ」向けの新たなイベント開催を検討した。

「社交、学び、自己実現志向のグループ」に対しては、サロン⇒競技会出場という流れにならずにサロンで滞留する「社交、大人の遊びのグループ」を新たなグループとして捉え、サロンプレイヤーとして継続するよう支援のありかたを検討する。一方の「学び、自己実現志向のグループ」に対しては、競技会出場へのハードルを下げるような制度を検討し、可能なものから実施していく。」

「社交、大人の遊びのグループ」に対しては、複式学級型の入門サロンや「ABC クラブ」に対する助成を継続し、サロンプレイヤーとして楽しく続けられるよう環境作りを行った。「学び、自己実現志向のグループ」に対しては、サロン⇒競技会出場という流れを作るべく、初心者大会の支援や参加賞および賞品の充実を図り、競技会の面白さをアピールした。

「参加者が固定しつつあるプレイヤーズサロンは、お客さま満足度を向上させるべく、『プレイヤー第一』を前面に掲げ、楽しく学べる場、気楽に遊べる場であることを積極的にアピールし、口コミや人の繋がりの活用で参加者拡大を図っていく。」

初級プレイヤーズサロン「ABC クラブ」、中級プレイヤーズサロン「XYZ クラブ」は若いインストラクターを起用し、夜間に 1 人で参加できる、気楽に楽しく学び遊べる場として開催した。口コミでの拡大を図ったが、参加人数は前年度並みにとどまった。

「首都圏における普及活動は、入門講習会のための新たなカリキュラムや普及用スタンダードシステムについても、多くの人を選びたくなるような、わかりやすく使い勝手の良いものを制作し無償提供していく。」

2001 年初版の「ミニブリッジをとりいれたコントラクト・ブリッジ入門 1 ティーチングプログラム（教師用マニュアル）」のリニューアルおよびそれに関連した普及用スタンダードシステムの改訂を目指し検討を行った。入門用のハンドや問題の整備のための題材の収集を行った。

「大阪、名古屋における普及活動は、平成 27 年度大阪大学で新たに開講したブリッジ授業を中心に学生層や若い世代を受け入れる場の提供や運営について、ブリッジクラブ、ブリッジセンターだけでなく、カルチャースクールとも協力しながら検討を進めていく。」

平成 27 年度に開講した大阪大学でのブリッジ講座は、内容がより充実し受講者も増加した。ゲームマーケット関西では、ブリッジコーナーが常時出展するブースとして定着し毎回活況を呈している。名古屋・京都ではカルチャースクールと連携した講座の開催を行い、若い世代の参加を模索した。

「その他の地方における普及は、必ずしも入門講習会にこだわらず、少人数でもサロン形式のプレイ場所を拡充していくよう、新たな運営形態への助成についても検討する。」

全国のブリッジクラブによる普及活動を奨励し、イベント企画・体験教室スタッフ派遣・賞品提供など必要な支援を行った。

(3) 国際交流事業（公益目的事業 3）

「本年度は、日本国内での国際競技会は開催しないが、ブリッジの普及発展とブリッジを通じた国際交流に努めるとともに、国際競技会運営ノウハウの集積と技術向上をめざす。」

平成 28 年度は国際大会の国内での開催はなかったが、平成 25 年 2 月の NEC ブリッジフェスティバルから使用を開始したスコアのリアルタイム表示システムについては、不具合を修正の上、継続して使用した。

「2018 年にジャカルタ（インドネシア）で開催されるアジア競技大会においてブリッジ種目が採用された。今後 JOC の認定団体となるよう働きかけを行い、インドネシアコントラクトブリッジ協会とともに、APBF 加盟国・地域の NBO、特に地域内の有力国・地域である中国、チャイニーズ・タイペイ、韓国との連携を強化し、マインドスポーツとしてのブリッジの普及・発展に努める。」

平成 28 年度も例年どおり上記方針に従い事業活動を行った。

2018 年にインドネシアで開催される第 18 回アジア競技大会においてブリッジ種目の採用が決定した。今後アジア各国のブリッジ組織と協調して、同大会へ出場するために日本オリンピック委員会への加盟の働きかけを行ってゆく。

「2020 年東京オリンピック・パラリンピックにあわせて日本でのマインドスポーツの世界大会開催を目標に関係団体と協議を行い、実現に向けて活動を進めていく。」

平成 28 年度は関係団体と実現に向けて協議を行った。

(4) 収益事業等

① 公認事業（収益事業 1）

「公認事業関連業務の見直しを行い、システム化、効率化を図り、公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターと連盟双方の事業基盤が強化されるような態勢の実施をめざす。」

近年、競技会の結果報告を JTOS で送信してもらうことにより、競技会のすべてのデータが入手できるようになった。現在はマスターポイント発行、公認料・割引の集計を一元的に行っているが、さらには収集したデータを分析し、参加者のニーズにあった競技会を提供していくことを目指し、その具体的手段について検討を行った。

これまで公認料は上限を設定していたが、CCG については無料または非常に安い参加料で開催するケースもあった。平成 28 年度は、改めて公認料の下限の設定を行うべきかについて検討を行った。また、非会員の競技会参加にはこれまで会員と参加料に差をつけてこなかったが、競技会の公平性を保ち、参加する非会員に入会を促すため、主催競技会では非会員の参加料の値上げ、セクショナル以上の公認競技会では非会員の公認料の値上げについて検討を行い、いずれも平成 29 年 4 月から実施することになった。

② 商品販売事業（収益事業 2）

「在庫管理や販売方法など関連業務の効率化を図る。」

在庫管理やウェブからの商品発注に対する回答などの自動化について検討を続けたが、実施するまでには至らなかった。

(5) 管理部門

「平成 27 年度に続いて本年度も「新入会無料キャンペーン」を継続する。平成 26,27 年度の無料キャンペーンで入会した会友の継続状況を調査して、退会者減少のための方策を検討する。一方、未来への財産として、これまでの活動を整理し記録を保管していく事業を継続する。」

新入会者の年会費無料の連盟の負担額は平成 27 年度の約 140 万円に対し平成 28 年度は約 130 万円であった。今後も新入会キャンペーンは継続するが、今後は前年度並みの入会状況が続くものと思われる。

新入会者が継続して会友に留まるかどうか非常に重要であるため、今後も無料キャンペーンで入会した会友の継続状況を調査して、退会者が多い場合にはその対応策を検討する。

「事務局業務の改善に引き続き取り組み、業務の効率化を推進する。」

定型業務についてはスムーズな業務引継ぎができるようマニュアル化や作業効率化を図った。

「内部統制力の向上のため、連盟内システムの見直しと改善を図る。」

業務達成評価シートを活用し、面談によってそれぞれ課題を明確にして取り組むよう指導した。事務局会議を 2 週間に 1 度開催し、各自の業務予定の発表とともに事務局全体への周知、上司からの指示を伝えた。

「進展する高齢化社会に対応可能な事業基盤の構築をめざす。」

平成 28 年度は、高齢者の中でも「対応が難しいプレイヤー」として細心の注意を払うべきプレイヤーに対する事例を集めて問題点を整理した。6 月にはガイドラインを制定し、ブリッジクラブ、ブリッジセンターに周知した。競技会参加が難しい方に対しては、高齢者に適したサロンの運営を検討した。

I. 競技会事業（公益目的事業 1）

1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）

① 主催競技会

- 平成 28 年度は以下の競技会を主催した。

競技会名	日 程	開催 日数	場 所	参加 卓数	前年度
1) ナショナル競技会（全国大会）					
玉川高島屋 S・C 杯	4 月 16、17 日	2 日	玉川高島屋 S・C/ 四谷 BC	79 卓	86 卓
全日本地域対抗選手権 （関東予選）	5 月 7、8、 14、15 日	4 日	四谷 BC	63 卓	79 卓
藤山杯（予選・決勝）	7 月 2、3 日	2 日	四谷 BC/ 渋谷 BC	72 卓	77 卓
外務大臣杯（予選・決勝）	8 月 20、21 日	2 日	四谷 BC	50.5 卓	54 卓
高松宮記念杯	9 月 19～22 日	5 日	四谷 BC/ 五反田 BS	85 卓	97 卓
全日本女子ペア選手権 （予選・決勝）	10 月 22、23 日	2 日	四谷 BC	89 卓	86.5 卓
高松宮妃記念杯（予選・決勝）	11 月 5、6 日	2 日	四谷 BC	70.5 卓	72 卓
NISSAN ブルーリボン杯	12 月 23 日	1 日	四谷 BC/名古屋 BC/ 大阪 BC	79 卓	93 卓
エンゼル・レッドリボン杯	12 月 23 日	1 日	高田馬場 BC/ 大阪 BC	41 卓	31 卓
朝日新聞社杯	1 月 7～9 日	3 日	四谷 BC/五反田 BS/ 高田馬場 BC/渋谷 BC	144 卓	146 卓
2) 日本リーグ					
1 部	} 前期：4・7 月 後期：12・1 月	4 日	四谷 BC	16 卓	16 卓
2 部		4 日		24 卓	24 卓
3) リジョナル競技会					
柳谷杯	4 月 2、3 日	2 日	四谷 BC/五反田 BS 高田馬場 BC	114 卓	120 卓
サントリー杯	4 月 29 日	1 日	四谷 BC/横浜 BC 名古屋 BC/大阪 BC	83.5 卓	90.5 卓
井上杯（予選・決勝）	5 月 28、29 日	2 日	四谷 BC	36.5 卓	40 卓
井上歌子杯	5 月 29 日	1 日	四谷 BC	29.5 卓	30 卓
渡辺杯	3 月 25、26 日	2 日	四谷 BC	39 卓	43 卓
4) 社会人リーグ					
社会人 IMP リーグ	11 月～3 月		各会場	14 卓	14 卓

- 平成 28 年度も前年度優勝者を招待した。地方予選通過・地方クラブ推薦による参加者に対しては交通費・宿泊費の助成を実施するとともに、前日宿泊の宿泊費を助成した。

内訳：交通費補助・前泊補助の対象はチーム戦 3 競技会 19 チームと、ペア戦 3 競技会 33 ペア、補助総額は 317 万円。

- ナショナル競技会は参加者数が全般的に例年より減少している。
- リジョナル競技会のセンター移管を継続した。

② NEC ブリッジフェスティバル

- 第 21 回 NEC ブリッジフェスティバルを平成 29 年 2 月に開催した。

2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2）

平成 28 年度は以下の事業を実施した。

① 競技会運営管理システム

- 競技会集計ソフト（JTOS）の保守・管理を行い、主にスコア入力システム（ブリッジメイト）使用時の機能を向上させ、ブリッジメイトを使用するセンター/クラブに対しては随時バージョンアップしたβ版を提供した。
- 平成 29 年 2 月に JTOS Ver 3.4 をリリースした。
- 日本での使用周波数帯変更に伴うブリッジメイトのファームウェアアップデートを使用クラブ/センターに通知した。

② 競技会運営環境の整備と維持

- 主要競技会の予想参加者数に応じて、複数の会場（主に首都圏ブリッジセンター）に会場提供を依頼し、参加者数に対して余裕のある会場スペースの準備・確保に努めた。

③ 競技委員会

- 寺本直志理事を委員長として以下の 11 名が委員として活動した。

委員：齋藤千鶴乃、桜井雅子、山後秀幸、佐々部君敏、西田奈津子、正村祐一、林伸之、横井大樹、吉田正、仲村篤志、競技会事業担当業務執行理事

- 定例委員会を 6 回開催した。

④ ルール委員会

- ルール委員会を 1 回開催した。
- 2017 年版ブリッジの規則が発表され、早期の実施に向けて翻訳作業を開始した。

3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）

平成 28 年度は以下の事業を実施した。

① ディレクター講習会

平成 29 年 3 月 18 日（土）に四谷ブリッジセンターでクラブディレクター養成講習会を開催し、16 名が受講した。同時にクラブディレクターを対象とする講習会を開催し、3 名が受講した。

② ナショナルディレクター養成プログラム

隔年開催につき平成 28 年度はナショナルディレクター養成プログラムを実施しなかったが、平成 29 年度のプログラムに向けて、ディレクターワーキンググループで準備を進めた。

③ ディレクター承認

競技委員会においてクラブディレクター 36 名、セクショナルディレクター 3 名を承認した。

4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）

- 競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出した。

II. 普及事業（公益目的事業2）

本事業は、ブリッジのことをよく知らない人々の興味・関心を高め、また、あらゆる年齢層のブリッジに対する理解及び技量の向上を促すことにより、マインドスポーツとして文化・スポーツの両方の側面を有するブリッジの普及を図り、児童・青少年の健全な育成、国民の心身の健全な発達及び豊かな人間性の涵養に寄与することを目的とする。具体的には、(1) 体験イベントの開催、(2) 講習会等の開催、(3) 他の団体等による体験イベント・講習会等の実施支援、(4) ブリッジ普及のための広報及びツールの作成・配布の4事業を行う。

平成28年度は、以下の方針で事業を進めた。

「従来からの事業に関しては継続することを原則とし、追加コストをあまりかけない範囲で充実・拡大を図る。ただし、計画通りに進捗していない事業に関しては、課題を整理して対応を検討し、手段の見直しや態勢の立て直しを図る。

平成28年度の新規事業に関しては、外部コストのかからない検討作業や内製を進めていく。」

• 体験イベントの開催（公益事業2.1）

平成28年度はNECブリッジフェスティバルを実施したため、従来通りの体験イベントは行ったが、それに関連する広報宣伝活動は例年以下に抑えた。

関西地区におけるゲームマーケットへの体験教室出展はテーブル数を拡大して行い、参加者の増加につながった。

初心者競技会は平成27年度同様に通常の普及事業とし、優勝賞品や参加賞を充実させて、希望する全国のブリッジセンターに運営を委託して開催した。通常の初心者競技会に比べて参加者がかなり増加した。

ねんりんピック長崎では、地元のブリッジプレイヤーの協力のもと体験イベントを開催した。

ジュニアイベントでは、10周年キャンペーンとして「シニア・ジュニアくらぶ」を継続し一定の成果を得た。

• 講習会等の開催（公益事業2.2）

競技ブリッジを目的とするビディングシステムではなく、わかりやすく使い勝手の良い普及目的のスタンダードシステムの制定と、多くの人を選びたくなるような入門講習会のカリキュラム制作に取り組み、既存のコンテンツの収集と分析を行った。

講習会で入門者や初心者にブリッジを愉しむためのマナーを教えるだけでなく、幅広い層を対象に、スムーズな競技運営のためのマナー向上や競技会ルールの浸透を目指した。講習会で配布するマナー集について検討した。

• 体験教室・講習会等の実施支援（公益事業2.3）

会員制リゾートホテルやテニスクラブあるいはデパートの外商顧客など、特定メンバーを対象として、講習会カリキュラムなし、レベルによるクラス分けなしで行う「PRサロン」については、近畿日本ツーリストの藤沢・大宮・八王子の各営業所での開催を支援した。

• 広報（公益事業2.4）

40代～50代の新規女性プレイヤーをメインターゲットとして、体験・入門を随時受け付ける「ソーシャルブリッジクラブ」は、検討をするにとどまった。

ネット経由の情報を充実させるための新たにチュートリアル制作については、ブリッジの技量や知識を総合的に判断する検定試験の試作を行った。

- 管理（公益事業 2.5）

初年度年会費無料制度を継続し、新入会者の獲得に力を入れた。期間中の新入会者は、平成 28 年度末 348 名、会員総数は 7,752 名となった。今年度も制度の効果が着実に継続していることを確認し、恒久的な制度化に対する評価が高まった。

1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）

ブリッジをよく知らない人々を対象に、気軽に参加でき、ブリッジに対する興味・関心を高めてもらうための各種体験イベント関連事業を「体験イベントの開催」としてまとめ、以下事業を実施した。

① 文化・教育関連イベント出展

事業名	主催団体	実施場所	実施時期	日数	受益対象者の範囲	参加人数 (延べ)
ねんりんピック	厚生労働省	長崎県	10月15日～ 16日	2日	一般	130名
霞が関子ども見学デー	文部科学省	文部科学省	7月27日 28日	2日	小中学生及びその保護者など	300名
第10回関西ジュニア・ペア碁大会	日本ペア碁協会	京セラドーム	8月21日	1日	小中学生及びその保護者など	30名
ゲームマーケット（東京）	ゲームマーケット事務局	ビッグサイト	5月5日	1日	一般	100名
ゲームマーケット（東京）	ゲームマーケット事務局	ビッグサイト	12月11日	1日	一般	110名
ゲームマーケット（神戸）	ゲームマーケット事務局	神戸国際展示場	3月12日	1日	一般	75名

② 一般向け体験イベント

サンケイリビング社主催イベント「おとなの時間 in 早稲田の杜」（平成 28 年 11 月 21 日開催）および「明るく元気なシニアライフを送ろう！」（平成 29 年 2 月 20 日開催）に出展し、おもに 40 代～50 代の女性に向けた体験教室を開催した。来場者はそれぞれ約 80 名、約 30 名であった。

③ ジュニア向け体験イベント（ジュニアクラブイベント）

- ジュニアクラブ体験イベント

ジュニア層及びその保護者に対するブリッジの認知度・イメージの向上とジュニアプレイヤーの数的・地域的基盤の拡大を図り、将来のブリッジ界を担うジュニアプレイヤーを育成するため、ジュニア層及びその保護者がミニブリッジを体験、練習できる機会を継続的に提供した。

年間開催実績

事業名	実施場所別回数		実施時期	参加人数 (合計)
	四谷 BC	横浜 BC		
体験／入門／練習会				
体験教室	8	1	通年	22名
橋之介道場	7	3	通年	28名
大会				
お楽しみ大会	0	2	5月/12月	14名

- ジュニアくらぶ運営

平成 28 年度のジュニアくらぶへの新規入会者数は 8 名（平成 27 年度 6 名）、年度末時点での会員数は 165 名（同 202 名）、各種イベントへの延べ参加者数は 64 名（同 63 名 ※ジュニアのみ）であった。

ジュニア向け広報活動として季刊誌『ジュニアくらぶ通信』の編集・発行（6 月、9 月、12 月、3 月）を行った。このほか、会報ジュニアコーナー・ウェブサイトのジュニア向けページの記事の編集・作成・掲出、チラシ・ポスター制作・配付、登録者向けのイベント情報のメール配信などの広報活動を行った。

2. 講習会等の開催（公益目的事業 2.2）

ブリッジに親しみ、理解を深め、技量を向上させるための講習会等を開催する事業を「講習会等の開催」としてまとめ、以下の事業を実施した。

① インストラクター講習会

公認資格制度の前段として、ブリッジに限定しない一般的な講師力や対話力等の一般的な指導スキルを習得するためのインストラクター講習会を平成 29 年 2 月 25 日に開催し、群馬、神奈川、静岡から 4 名が参加した。

② ユース向け講習会

意欲あるユースプレイヤーの育成を目的とする「ユース育成プロジェクト」の一環として、強化プログラムによる技術向上支援を行った（「ユース育成プロジェクト」の国際大会派遣事業は公益目的事業 3.2）。

A) 育成プロジェクト（公益目的事業 2.2）

平成 28 年度の代表選手及び平成 29 年度代表候補登録者を対象に、練習会、講習会、国内競技会参加（反省会形式の講習会を含む）、代表選考試合等で構成される育成プロジェクトを実施した。参加者には、プロジェクト指定の 4 競技会（柳谷杯、横浜 INV、高松宮記念杯、朝日新聞社杯）と特別講習会への参加費を助成した。遠方からの参加者には、交通費・宿泊費の助成も行うとともに、各講習会には講師を派遣した。

ユース育成プロジェクトの平成 28 年度の登録者数は 69 名（前年比 10 名増）だった。

B) 国際大会への派遣（公益目的事業 3.2）

平成 28 年度は以下の国際大会への代表選手派遣または参加支援を実施した。

- 第 8 回 APBF コングレス

会 期： 平成 28 年 4 月 15 日～4 月 24 日

開催地： 中国（北京）

内 容： 26 歳未満(U26)と 21 歳未満 (U21) のジュニアチーム計 12 名を派遣し、航空運賃、宿泊費、参加料、海外保険料、ユニフォーム代を助成した。

- 第 16 回世界ユースチーム選手権

会 期： 平成 28 年 8 月 3 日～8 月 13 日

開催地： イタリア（サルソマジョーレ）

内 容： 26 歳未満(U26)のジュニアチーム 6 名を派遣し、航空運賃、宿泊費、参加料、海外保険料、ユニフォーム代を助成した。

③ プレイヤーズサロンの拡充

遊びながら上達することを目指すプレイヤーズサロンは、口コミや人の繋がりを活用して参加者の拡大を図った。毎月 1 回常設されている 3 センターに加えての新たな 1

センターもしくは 1 開催増加を模索した。

④ 入門講習会のカリキュラム制作

List-A、B、C に準拠した普及用スタンダードシステムの制定を目指し、入門用カリキュラムのリニューアルと並行して検討した。

必ずしも競技ブリッジを目的としない入門用講習会のカリキュラムについて、サロンの状況を踏まえて検討した。

⑤ マナー向上や競技会ルールの浸透

講習会で入門者や初心者にブリッジを愉しむためのマナーを教えるための配布物を試作した。

幅広い層を対象に、スムーズな競技運営のためのマナー向上や競技会ルールの浸透を図るための簡単な講習会開催を検討した。

3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）

体験教室や講習会等を開催する会員・会友や他の団体に対して、人的支援、金銭的支援、用具や教材の提供およびノウハウの支援を行った。

① 一般支援

体験教室・入門講習会を開催して愛好者を増やしたいという会員・会友の自己負担を軽減する支援を継続し、開催場所・回数増を図った。また、カルチャースクール講座では通常支払われないアシスタント料を助成することにより、良質なブリッジ講座の開催を支援した。

・ ブリッジセンター、クラブ及び個人が開催する体験教室の助成

14 都道府県の教育現場や文化祭、地域イベント、国際交流イベント、老人福祉センター、同窓会、公民館、ブリッジクラブ、海外クラブ、クルーズで、会員・会友が開催した体験教室の講師／アシスタント料、会場費、交通費を助成した。

地域別実施状況内訳

地域	参加者数	件数	助成額
北海道	110 名	4 件	¥75,520
岩手	4 名	1 件	¥10,000
宮城	31 名	2 件	¥38,000
栃木	162 名	11 件	¥141,000
群馬	46 名	3 件	¥32,800
東京	513 名	35 件	¥706,260
埼玉	135 名	1 件	¥39,880
千葉	21 名	5 件	¥45,680
神奈川	275 名	14 件	¥327,976
山梨	40 名	2 件	¥61,000
新潟	12 名	1 件	¥19,500
大阪	68 名	3 件	¥108,220
福岡	56 名	3 件	¥65,380
長崎	53 名	1 件	¥29,090
海外	188 名	3 件	¥46,500
クルーズ	50 名	1 件	¥3,000
合計	1,772 名	91 件	¥1,794,306

- ブリッジセンター、クラブ及び個人が開催する入門教室の助成

11 都道府県及びジャカルタ、シンガポールなどで会員・会友が開催した入門講習会の講師料、会場費、交通費、及びクルーズのアシスタント料を助成した。

地域別実施状況内訳

地域	参加者数	件数	助成額
北海道	64 名	6 件	¥583,900
宮城	58 名	6 件	¥404,040
栃木	6 名	1 件	¥81,600
東京	63 名	8 件	¥753,596
千葉	13 名	2 件	¥185,080
神奈川	166 名	12 件	¥2,315,978
山梨	9 名	1 件	¥81,500
静岡	14 名	2 件	¥112,600
新潟	4 名	1 件	¥63,000
京都	14 名	1 件	¥87,120
福岡	13 名	3 件	¥97,040
海外	30 名	4 件	¥201,800
クルーズ	195 名	5 件	¥477,920
合計	649 名	52 件	¥5,445,174

- カルチャー講座助成

7 都府県で開講されているカルチャースクール講座 51 件について、アシスタント料、講師・アシスタント交通費および講師料（規定金額に満たない場合のみ）の助成を行った。

地域別実施状況内訳（アシスタント交通費助成を含む）

地域	参加者数	件数	助成額
東京	313 名	22 件	¥806,380
埼玉	51 名	4 件	¥102,660
千葉	17 名	4 件	¥124,320
神奈川	23 名	3 件	¥175,320
長野	23 名	5 件	¥202,560
愛知	68 名	8 件	¥227,340
大阪	35 名	5 件	¥471,144
合計	530 名	51 件	¥2,109,724

- 地方活性化活動（地方クラブ支援）

地方クラブ・センターだけでなく、カルチャースクールとも協力しながら、それぞれが抱える課題に応じた支援を行った。全国のブリッジクラブによる普及活動を奨励し、イベント企画・体験教室スタッフ派遣・賞品提供など必要な支援を行った。

長崎チェス&ブリッジクラブ主催「第 9 回長崎居留地まつりブリッジ大会新人戦」に優勝グラスおよび APBF2012 福岡記念カードセット寄贈（9 月）

② 教育現場におけるブリッジ講座支援

- 東京大学ブリッジ講座（11 年目）
 講座概要： 前期・後期 各 14 回、2 単位
 実施場所： 東京大学駒場キャンパス
 講師： ロバート・ゲラー
 支援内容： 準講師格アシスタント 2 名の派遣、四谷ブリッジセンターでの最終授業（1 日）開催、教材コピー、発送など事務業務、受講学生への JCBL 会報配付支援を行った。
 結果： 受講登録者 50 名 単位取得者 34 名
- 早稲田大学ブリッジ講座（8 年目）
 講座概要： 前期・後期 各 15 回
 実施場所： 早稲田大学
 講師： 並木亮
 支援内容： 講師及びアシスタント 4 名の派遣、交通費、会場費、用具その他授業経費支援を行った。
 結果： 受講登録者 48 名 単位取得者 46 名
- 青山学院大学ブリッジ講座（5 年目）
 講座概要： 前期・後期 各 15 回
 実施場所： 青山学院大学
 講師： 島村京子
 支援内容： 講師及びアシスタント 6 名の派遣、交通費、教材コピー、発送、用具その他授業経費支援を行った。
 結果： 受講登録者 67 名 単位取得者 64 名
- 明治大学ブリッジ講座（3 年目）
 講座概要： 前期・後期 各 15 回
 実施場所： 明治大学
 講師： 清水映樹
 支援内容： 講師及びアシスタント 4 名の派遣、交通費、教材コピー、発送、用具その他授業経費支援を行った。
 結果： 受講登録者 44 名 単位取得者 39 名
- 大阪大学ブリッジ講座（2 年目）
 講座概要： 後期 15 回
 実施場所： 大阪大学
 講師： 大橋正幸
 支援内容： 講師及びアシスタント 4 名の派遣、交通費、教材コピー、発送、用具その他授業経費支援を行った。
 結果： 受講登録者 17 名 単位取得者 15 名

③ 学校・学生支援

- 学生クラブの活動支援（部員勧誘活動、クラブ立ち上げ、用具提供）
 要請に基づき、大学・高校・中学ブリッジ部の立ち上げや新入部員獲得活動に対する支援やクラブ活動に必要な教材・用具等の提供を行った。
 対象クラブ：7 クラブ
- 学生クラブによる他大学や他サークルの友人・知人への PR 活動推進支援（費用支給）
 要請に基づき、他大学や他サークルの友人への PR 活動への支援を行った。
- 学生リーグ主催の学生選手権への参加費用助成
 学生リーグ主催の学生選手権および学生合宿に今回初めて参加した学生の宿泊費・交通費の一部を対象にて助成を行った。

夏季学生選手権・合宿

開催日：平成 28 年 9 月 2 日～9 月 7 日

会 場：国立女性教育会館

参加人数：77名（うち受益対象者、32名）

春季学生選手権・合宿

開催日：平成29年3月6日～3月11日

会 場：国立女性教育会館

参加人数：56名（うち受益対象者、25名）

4. 広報（公益目的事業 2.4）

普及のターゲットごとに最適な広告メディアを選定して PR 活動やプロモーション活動を行った。

① 広報宣伝 PR 活動

- 平成 28 年度に実施した媒体への広告掲出は以下のとおり。

	掲出媒体	回数
プロモーション広告	SKYMARK 機内誌 2016 年 4 月号～2017 年 3 月号	12 回
イベント告知広告	サンケイリビング新聞社主催イベントブース協賛 11 月 21 日 おとなの時間 in 早稲田の杜 2 月 20 日 明るく元気なシニアライフを送ろう！	2 回

- センター主催体験教室・講習会告知広告
朝日新聞 8 月（東京・神奈川・千葉）：115.5 万円
読売新聞 2 月～3 月（関東）：129.6 万円
日経新聞 3 月（東日本）：108 万円
リビング新聞 10 月（仙台）：9 万円
 - その他の広報宣伝活動
プレスリリース配信：5 本
ブリッジ図書寄贈プロジェクト（奈良）：12 箇所、12 冊
 - 「普及通信」ウェブ版を隔月更新した。
 - 記録ビデオを DVD 化して JCBL ライブラリー化し、会員・会友に貸し出し可能にする仕組みについて検討した。
 - 入門レベルのチュートリアルビデオの制作、およびウェブサイトでの公開については、その後シリーズ化してネット（YouTube 等の動画投稿サイト）で公開することも視野に入れて検討した。
- ② プロモーション活動
- 気軽にできる無料ウェブ検定（級位認定試験）のウェブサイト公開のための試作版を作成した。
 - ネットゲーム環境として BBO に開発した JCBL 専用ルームの利用者拡大を図り、HP を通じた誘導を行った。
 - 全国のブリッジセンター・ブリッジクラブを一体になったプロモーション制度の設計や年数回程度しか競技会に出場しない会員・会友を対象にした活性化キャンペーンに

ついて検討した。

- 働く 40 代～50 代の女性をメインターゲットとして平日夜間にブリッジイベントを定期開催し「ソーシャルブリッジクラブ」を設立することを目標に、宣伝方法等を検討した。
- 入門者や初心者だけでなく幅広い層を対象として、ブリッジのマナーの向上やルールの浸透を図るための小冊子を試作し、簡単な講習会の開催を検討した。

③ 出版物の刊行

- 普及用スタンダードシステムに準拠した入門レベルの教材の制作のため、2001 年初版の「ミニブリッジをとりいれたコントラクト・ブリッジ入門 I ティーチングプログラム（教師用マニュアル）のリニューアルの検討を行った。ブリッジをテーマにした小説の制作、出版を目指して情報収集を行った。

④ ウェブサイト運営

- 助成に関する規定や説明をより見やすくする目的で HP の階層を検討した。2015 年 1 月に改訂した助成制度のさらなる定着を図った。

⑤ 広報ツール、プロモーショングッズの作成・配布

- 普及のための広報ツールやプロモーショングッズを適宜作成・配布した。

5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）

- 普及ネットの運営を行った。
- 普及に関わる JCBL 公認資格制度確立のための制度設計について検討した。
- ブリッジ・インストラクターの登録管理と登録証の発行を行った。

III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

平成 28 年度も (1)国際競技会の主催、(2)海外競技会への参加支援、及び(3)国際的競技団体との交流の 3 事業を通じて、ブリッジの普及・発展への寄与に努めた。

1. 国際競技会的主催（公益目的事業 3.1）

平成 28 年度は国際競技会を開催せず、平成 32 年の APBF 競技会の日本開催を目標に資金を積み立てた。

2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）

① 日本代表選抜

- 第 15 回ワールドブリッジゲームズのみクストチーム代表選抜試合を 4 月 30 日、5 月 1 日に開催した。
- 平成 29 年度開催の第 51 回 APBF 選手権の日本代表選抜試合を開催した。参加チーム数がオープン 1、ウィメン 2、シニア 2 のため、オープンは選抜試合を行わず、ウィメンは 11 月 29、30 日に、シニアは 2 月 4、5 日に選抜試合を行った。遠隔地からの参加者には交通費と宿泊費を助成した。
- 代表チームの国内ナショナル競技会参加料及び練習会の費用を助成した。

② 国際競技会派遣

• APBF 選手権

4 月 15 日から 24 日の日程で、北京（中国）で 2016 アジアブリッジオープンコンGRESSが開催された。代表者会議には、大橋理事が代表委員として出席した。APBF 幹事長として吉田理事が就任することに決定した。

オープン参加のコンGRESSのため、代表チームの派遣は実施しなかった。

• 世界選手権

平成 28 年度は 9 月 3 日から 17 日までの日程で、ヴロツワフ（ポーランド）で第 15 回ワールドブリッジゲームズが開催された。

日本からはオープン、ウィメン、シニア、ミクスト各 1 チームを派遣した。

オープン：三浦裕明（NPC）、横井大樹、田中陵華、陳大偉、古田一雄、加来浩、高山雅陽

ウィメン：清水康裕（NPC）、折原尚子、小田由美子、杉山靖子、岩橋道子、椿旬子、島崎彩子

シニア：大橋正幸（PC）、森村俊介、平田眞、今倉正史、山田彰彦、大野京子

ミクスト：寺本直志（PC）、島村京子、小林泰、西田奈津子、成田秀則、佐藤牧子

試合成績は、オープンは予選 18 チーム中 3 位で決勝ラウンドに進出したが、ベスト 16 の対戦でスウェーデンに敗れた。ウィメンは予選 18 チーム中 13 位で決勝ラウンドには進めなかった。シニアは 24 チーム中 21 位で決勝ラウンドには進めなかった。ミクストは 23 チーム中 7 位で決勝ラウンドに進出したが、ベスト 16 の対戦で USA に敗れた。

ミクスト以外の各チームのメンバーには交通費、宿泊費の助成を行った。

• その他国際試合派遣

平成 28 年度はワールドブリッジゲームズ日本ウィメン代表チームに対し、アジアブリッジオープンコンGRESS参加のための交通費の助成を行った。

③ 国際競技会派遣（ユース）

平成 28 年度は以下の競技会への参加を支援した。

- 第 8 回 APBF コングレス (北京 (タイ)) : ジュニア (U26) 部門、ヤングスター (U21) 部門に参加
- 第 15 回世界ユースチーム選手権 (サルソマジョーレ (イタリア)) : 前年度の APBF ユース選手権の成績によりジュニア (U26) 部門に選手 6 名、主将 1 名を派遣

3. 国際的競技団体との交流 (公益目的事業 3.3)

コントラクトブリッジを通じた国際交流を促進するため、平成 28 年度は以下の事業を実施した。

① 世界同時大会への参加

- 平成 28 年 4 月 26 日～6 月 4 日に開催された 2016 年世界同時大会開催に参加協力
 - 4 月 26 日 (火) : 5 クラブ、192 名参加 (全世界 : 16 ヶ国、38 クラブ、1,198 名参加)
 - 4 月 28 日 (木) : 4 クラブ、98 名参加 (全世界 : 18 ヶ国、39 クラブ、1,110 名参加)
 - 5 月 9 日 (月) : 5 クラブ、152 名参加 (全世界 : 18 ヶ国、41 クラブ、1,232 名参加)
 - 5 月 11 日 (水) : 5 クラブ、142 名参加 (全世界 : 14 ヶ国、38 クラブ、1,148 名参加)
 - 6 月 3 日 (金) : 13 クラブ、442 名参加 (全世界 : 30 ヶ国、236 クラブ、7,026 名参加)
 - 6 月 4 日 (土) : 8 クラブ、176 名参加 (全世界 : 26 ヶ国、204 クラブ、7,148 名参加)
- 平成 29 年 3 月 28 日・30 日に開催された 2017 年世界同時大会開催に参加協力
 - 3 月 28 日 (火) : 5 クラブ、134 名参加 (全世界 : 15 ヶ国、37 クラブ、1,214 名参加)
 - 3 月 30 日 (木) : 4 クラブ、92 名参加 (全世界 : 10 ヶ国、30 クラブ、850 名参加)

② APBF 同時大会への参加

- 参加予定であったが大会開催が中止された。

③ 海外競技会に参加する会員の支援と海外への情報提供と収集

- ACBL との提携の継続・強化 : ACBL 競技会の開催状況の提供
- APBF 加盟国競技会の開催情報の提供
- WBF 加盟国の競技会開催情報の提供

④ JCBL ウェブサイトの活用

連盟サイトを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連サイトから情報を収集し、会員・会友に提供した。

4. 国際交流事業管理 (公益目的事業 3.9)

- 国際交流事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出した。

IV. 収益事業等

1. 公認（収益事業等 1）

収益事業等 1.1 競技会の公認

① クラブ・センター主催競技会の公認

- 当連盟が公認するブリッジセンター及びブリッジクラブが主催する競技会（ナショナル、リジョナル、セクショナル、ローカル、CCG、IMP リーグ、ウィークリーゲーム）を公認した。

レイティング	競技会数	H28 年度 卓数	H27 年度 卓数
ナショナル	23	208.0	207.0
リジョナル	50	1,590.0	1,580.0
セクショナル	2,478	38,292.0	37,127.5
ローカル	154	2,841.0	2,841.0
CCG	1,377	11897.25	10,417.0
IMP	681	3,670.0	3,638.0
合計	4,763	58,498.25	55,810.5

② マスターポイントの認定・管理

- マスターポイントの集計・発行及びマスター位の認定を行った。

マスターポイント証発行枚数：64,471 枚

平成 28 年度認定したマスター位の人数は以下の通り

ダイヤモンドライフマスター：	1 名
ゴールドライフマスター：	10 名
シルバーライフマスター：	41 名
シニアライフマスター：	121 名
ライフマスター：	138 名
シニアマスター：	164 名
ナショナルマスター：	188 名
マスター：	191 名
ジュニアマスター：	239 名

収益事業等 1.2 ブリッジクラブの公認と育成

① ブリッジクラブの公認と育成

- 浜松リジョナルにあわせて地方クラブ会議を開催し、地方クラブの意見やニーズの把握に努めた。また、会議に出席する地方クラブ代表に対する参加費用の支援を行った。
- 「常設会場運営のためのサービス・ガイドライン」の運用、「ゲーム環境に係わるサービス向上のための意見書」対応、「緊急連絡システム」の運営、AED 設置支援、バリアフリー工事助成を行った。

② 競技会開催支援

地方リジョナル 5 競技会にディレクター派遣費用の助成を行った。

2. 商品販売（収益事業等 2）

コントラクトブリッジに関する書籍、競技用具等の仕入れと販売を行った。

V. 法人・管理部門

1. 会員・会友

① 入退会の状況

会員／会友数(平成 29 年 3 月 31 日現在)

会員資格	H29/3月	H28/3月	増減
正会員	67	80	△13
シニア正	86	80	+6
終身会員	82	84	△2
特別会員	13	12	+1
名誉会員	3	4	△1
小計	251	260	△9
A会友	3,105	3,206	△101
B会友	3,325	3,203	+122
地方会友	936	919	+17
ジュニア	55	52	+3
終身会友	80	79	+1
小計	7,501	7,459	+42
総計	7,752	7,719	+33
クラブ	103	103	±0

② 会員・会友向け刊行物の発行

- 会員・会友向けの以下の刊行物を編集・発行した。

『JCBL BULLETIN』(会報) 隔月刊年 6 回奇数月 1 日に発行

部数：7,700 部 (1～4 号)、7,600 部 (5～6 号)

『JCBL HANDBOOK』

毎年 5 月 1 日発行、部数：7,900 部

③ JCBL ライブラリーの運営

- 通常の新刊書に加え、欠落していた図書の追加購入を行った。

④ キャンペーン

- 会員・会友向けに「紹介キャンペーン」を実施した。

実施内容：新入会者及び紹介者に QUO カードを進呈

実施期間：平成 28 年度入会対象 (平成 28 年 4 月 1 日～4 月 30 日)

平成 29 年度入会対象 (平成 29 年 1 月 1 日～3 月 31 日)

- 一般向けに「新入会キャンペーン」を実施した。

実施内容：新入会者は会費 1 年間無料

実施期間：平成 28 年度無料対象 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)

平成 28 年度および 29 年度無料対象 (平成 29 年 1 月 1 日～3 月 31 日)

2. 理事会・会員総会

(1) 理事会

開催日／出席等	議事事項	会議の結果
第 32 回理事会 4 月 27 日 全理事の投票	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 31 回理事会議事録案の承認について 2. 次期役員立候補について 3. 平成 27 年度事業報告書および決算報告書について 4. 理事による平成 28 年度予定分の利益相反取引の承認について 5. 第 5 回会員総会の招集について 6. 世界大学選手権グレードⅢ助成について 	可決 会員総会への付議を決議 会員総会への付議を決議 承認 承認
第 33 回理事会 5 月 28 日 出席 12 名 監事出席 2 名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 役員の互選について 2. 第 32 回理事会議事録の承認について 3. 特別会員の推薦について 4. 会員申込について 5. 会員資格の喪失について 6. 競技委員任命について 7. 理事による利益相反取引の承認について 8. 第 15 回ワールドブリッジシリーズ ミクストチーム代表メンバー/キャプテンの指名について 	選任 可決 承認 承認 承認 任命 承認 了承 承認
第 34 回理事会 6 月 24 日 出席 11 名 欠席 1 名 監事出席 2 名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 33 回理事会議事録案の承認について 2. 各委員会及び事業部報告 3. 熊本地震への対応について 4. 元錦糸町ブリッジセンター代表堺順市氏について 5. 四谷ブリッジセンターへの貸付金の質権設定について 6. 不正問題調査チーム報告について 7. 公開質問状について 	可決 了承及び承認 継続審議 了承 了承 継続審議 了承
第 35 回理事会 8 月 26 日 出席 11 名 欠席 1 名 監事出席 2 名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 34 回理事会議事録案の承認について 2. 会員の逝去について 3. 各委員会及び事業部報告 4. 不正問題調査チーム報告への対応について 5. 熊本地震への対応について 6. 元錦糸町ブリッジセンター代表者の自己破産申立について 	可決 了承 了承及び承認 承認 承認 承認 了承
第 36 回理事会 10 月 28 日 出席 10 名 欠席 2 名 監事出席 2 名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 35 回理事会議事録案の承認について 2. 公認クラブ申請について 3. 各委員会及び事業部報告 4. 四谷ブリッジセンター支援について 5. 錦糸町ブリッジセンター代表者の免責許可決定確定証明 6. 福岡ブリッジプラザについて 	可決 承認 了承及び承認 継続審議 了承 承認
第 37 回理事会 12 月 16 日 出席 9 名 欠席 3 名 監事出席 1 名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 36 回理事会議事録案の承認について 2. 公認クラブ申請について 3. 平成 29(2017)年度予算案について 4. 各委員会及び事業部報告 5. 四谷ブリッジセンター支援について 	可決 申請却下を了承 継続審議 承認及び了承 承認

第 38 回理事会 1 月 27 日 出席 11 名 欠席 1 名 監事出席 2 名	1. 第 37 回理事会議事録案の承認について 2. 正会員の退会について 3. 平成 29(2017)年度予算案及び事業計画について 4. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 継続審議 承認及び了承
第 39 回理事会 3 月 24 日 出席 12 名 監事出席 2 名	1. 第 38 回理事会議事録案の承認について 2. 正会員の退会について 3. 公認クラブ申請について 4. 平成 29(2017)年度予算案及び事業計画書について 5. 各委員会及び事業部報告 6. 会議室・ディールングルームの B1F への移設について 7. チャリティ寄付先について	可決 了承 承認 承認 承認及び了承 了承 了承

(2) 総会

開催日／出席等	議事事項	会議の結果
第 5 回会員総会 5 月 28 日 総会構成員 260 名 出席 145 名 (内委任状 113 名)	1. 平成 27 年度の公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟事業報告、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録について 2. 平成 28 年度の事業計画並びに予算案の報告について 3. 理事選任について 4. 監事選任について	承認 了承 選任 選任

3. 組織運営

① 事業運営体制

- 平成 29 年度予算案の審議のために、平成 28 年 12 月 2 日に業務執行理事による業務執行会議を企画委員会と合同で開催した。各事業部から提出された予算案をまとめた予算案原案が提出され、この原案をもとに 12 月、1 月開催の理事会および毎月開催の企画委員会において予算案を検討し、3 月 3 日に開催した業務執行会議において平成 29 年度予算案および事業計画をまとめ、3 月開催の理事会において承認した。
- 来年度以降も各事業部が予算編成を行い、それをまとめた時点で業務執行会議を開催し、各事業部の予算について拡大、縮小の審議を行う。その後の理事会および企画委員会で予算案について検討を行い、3 月開催の理事会で最終案を承認する手順を踏む。
- いくつかの規則の制定及び改定を行った。

② 事務局

- ほぼ隔週に事務局会議を開催し、事務局員の今後の予定、担当している業務の進捗状況などについて確認を行った。

4. 常設委員会・特別委員会

① 企画委員会

- 平成 28 年 6 月 24 日開催の第 34 回理事会において委員長指名により選任した以下のメンバーで構成されている。

委員： 山田和彦（委員長）、清水映樹（事務局長代行）

（委員長が指名する委員）浅越ことみ、神代高弘、寺本直志、西田奈津子、古田一雄、高野英樹

アドバイザー：成田秀則監事、宮内宏顧問弁護士

- 定例委員会を、平成 28 年 7 月 1 日、8 月 5 日、9 月 2 日、10 月 7 日、11 月 4 日、12 月 2 日、(業務執行会議と合同開催)、平成 29 年 1 月 6 日、2 月 3 日及び 3 月 3 日に合計 9 回開催した。
- 本委員会では、以下の課題に取り組んだ。
 - 1) 平成 29 年度予算案審議・事業計画書作成
 - 2) 平成 28 年度事業報告書作成
 - 3) ディレクター資格の付与および更新の基準に関する検討 (ディレクターWG)
 - 4) 記録保管制度の導入に関する検討 (記録保管制度WG)
 - 5) その他、JCBL の運営全般に関わる事項
- (1) 平成 29 年度予算案の審議については、業務執行会議との合同会議により、予算全体の方針の審議や、競技会事業部、普及事業部などの担当業務執行理事による予算方針の説明と事業部間調整が行われ、円滑に編成が行われた。
また、平成 29 年度事業計画書についても、滞りなく作成された。
- (2) 競技会における不正行為や規則違反行為の防止効果を期待できる記録保管制度の導入について、ワーキンググループから理事会に提出された「記録保管制度運用規則」が、議決され、平成 28 年 10 月から施行された。
- (3) IMP リーグの参加者増加のためにマスターポイントの増加とマスターポイントの獲得条件の緩和をすることとし、競技委員会に申し入れた。

② センター協議委員会

- ブリッジセンターの代表者と定期的に意見交換を行う協議会として、以下のメンバーにより構成されている。
委員：山田和彦 (委員長)、清水映樹 (事務局長代行)、大政哲人 (競技会事業部長)、高野英樹 (普及事業部長)、ロバート・ゲラー (競技会事業担当理事)、齋藤陽子、大橋正幸 (普及事業担当理事)
- 各種規則の適用だけでは対処できない「対応の難しいプレイヤー」に関して、競技会主催団体である JCBL とブリッジセンターの共有できるガイドラインを策定して、ブリッジセンターに説明のうえ、平成 28 年度から導入した。
- 記録保管制度の施行に向けて、7 月の地方クラブ会議及び 8 月の首都圏ブリッジセンター連絡会において、各センターのマネージャー及び主任ディレクターに対して、制度の説明を行った。

③ 競技委員会

- I. 競技会事業 (競技会運営環境の整備) 参照

④ ルール委員会

- I. 競技会事業 (競技会運営環境の整備) 参照

⑤ 人事委員会

- 臨時委員会を平成 28 年 8 月 26 日に開催し、新規採用の高野英樹が試用期間を終了することから、処遇について検討を行った。これに伴い、清水映樹普及事業部長の処遇について検討を行った。また大政哲人競技会事業部長が平成 28 年 12 月以て定年を迎えることから、継続雇用について検討を行った。
- 臨時委員会を平成 28 年 10 月 28 日に開催し、大政哲人競技会事業部長の退職金および継続雇用条件について検討を行った。また清水映樹事務局長代行の継続雇用について検討を行った。
- 定例委員会を平成 29 年 3 月 3 日に開催し、平成 28 年度の職員の評価、平成 29 年度の職員の年俸支給額について検討を行った。